

熱心な教材研究に基づく、提案性のある提案授業ありがとうございました。4年生の学年グループの皆さん、授業者の伊吹先生、本当にありがとうございました。また、夏休みから検討を始めてくださった学び委員会の皆さんの有意義な意見交流もありがとうございました。

全員で「共有」し、「だれでも」できる「短期目標」を提案していきます。

☆今回のポイント☆

①色彩語を読みにかす可能性・有効性

シンプルに同じ色を比較することで、色彩表現の吟味・意味づけができ、ごんの運命<悲劇>を読むことにつながる。

《例》

一場面

「まだ雨のしずくが光っていました。」(ごんを苦しめた雨。その後見たものが白い光。)



「白いものがきらきら光っています。」(ごんの心惹かれるもの)

兵十との出会い。
ウナギの重要性。



二場面

「遠く…おしろの
屋根がわらが光っています。」

コントラスト

「墓地にはひがん花(赤)が…(手前)」

「白い着物を着た葬列の者たちが
やってくるのが、ちらちら…」

動画的に・ダイナミックに

「兵十が白い袴を着けて…」(ごんがのび上がって見た)

色彩語は心情の直接表現ではない。様々な伏線・暗示。
読みのポイント、課題を絞り込むことで、子どもたちが考えやすくなる。
暗示されているもの、伏線に気づいていくために、叙述に即して読みを深めるための切り口をもって物語と関与させることが大切。

その他…

◎しつこい描写・二重逆説 等

◎音・動画的な視点 等

・・・その他、挿絵等 読みを深める視点を持つ!

② 「比較」について：比べ読みによる深まり

《例》

『白いぼうし』 ← 世界観・舞台が全く違う物語 → 『ごんぎつね』

共通点：主人公の償いだが・・・

白いぼうしの中で

夏みかん ⇔ 交換 ⇔ ちょうちょ

一刻も早く親（子）に見せたいもの

『車の色は空の色』作品全体を通して、季節が一周する物語。「白いぼうし」は春から夏へ。シリーズの中で読み比べると、松井さんが変わっていくことなども読みとれる。

《例》 物語の展開について比べると・・・

『ちいちゃんのかげおくり』

◎ 『スイミー』

× 『お手紙』

はじめは幸せ。事件で不幸に。最後にまた幸せ。

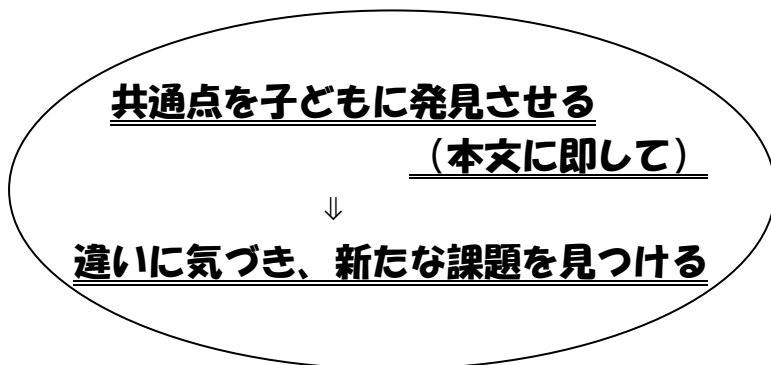
はじめは不幸。だんだん幸福へ。

⊕ どちらもハッピーエンドだね！

「ん？違う。ちいちゃん自身は幸せだが、読者は違う。」

比較して、共通点を見出させ、その上で新たに違いに気づかせる！
“子どもを困らせる！”
＝必然性

読みの軸が子どもによってバラバラにならないために
考えやすいフレーミングとして「比較」は有効！

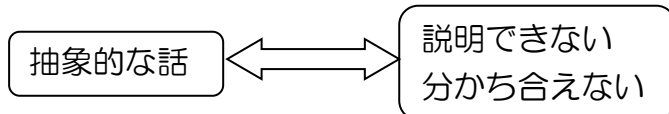


ベタな共通点で良い！

ステップを細やかに！

「ん？」と、子どもを困らせる！

<中学年まで>



限定的に、絞り込んで（基準線を引いて）考えさせる。
比べどころを絞り、多くの子どもが到達できる学習課題を！